

COC Monthly News Letter

COC: Center of Community (地(知)の拠点)

Yamanashi Prefectural University

山梨県立大学の地域貢献活動を毎月1回お届けします。

2017年3月号

Vol.

34



グローバルな知の拠点となる大学
未来の実践的担い手を育てる大学
地域に開かれ地域と向き合う大学

Topics

最新のニュース・話題など大学での出来事をお伝えします。

◇「甲府市への移住に関する調査」の報告会

2月17日(金)の10:30~12:00に甲府市役所市民対話室にて、今年度のCOCプロジェクトの1つである、甲府市の住みよさプロジェクトの「甲府市への移住に関する調査」の報告会が行われました。甲府市の方をはじめ、他市町村の方々も参加していただき、学生6名の発表に熱心に耳を傾けて下さいました。質疑応答も活発に行われ、とても充実した報告会になりました。ありがとうございました。以下、発表した学生からのコメントです。

2017年2月27日に市役所で移住者に関する報告会を行いました。報告会でこれまで2回にわたって実施した移住者グループインタビューの内容を、甲府市の支援制度である、仕事、子育て、教育などの6つのテーマにまとめ、甲府市の生活環境と移住に関する考察をしました。初めての報告会でしたが緊張しながらも、自分たちの考えを各市町村の役職員に伝えることができたと思います。この移住者調査で、甲府市の魅力を再確認でき、甲府市の生活環境の良さを改めて実感しました。いろいろな方に出会い、話を聞いたこともとてもいい経験となりました。(総合政策学部総合政策学科2年 朱 芷涵さん)



イベント情報

気になる話題の情報やためになる講習会や研修会をご紹介します。

◇平成29年度 Mirai プロジェクト募集

未来計画研究社では、平成29年度 Mirai プロジェクトを募集することとなりました。

Mirai プロジェクトとは、地元企業・団体と学生の協働により、すなわち、実際のプロジェクトを行うプロジェクト型インターンシップです。

山梨県内の中小企業・団体、自治体関係者の皆さまにおかれましては、学生と一緒に新たなプロジェクトに取り組むことができる機会となりますので、是非ご検討いただければ幸いです。

詳細につきましては、以下、ご参照下さい。

応募方法 下記のサイトから申込フォームに必要事項をご記入の上、ご応募下さい。
(応募件数は、1社につき1プロジェクトとさせていただきます。)

<http://www.coc-plus.yamanashi.ac.jp/1737/>

応募期限 平成29年3月31日(金)まで

応募件数 20件を想定

選考方法 インターンシップ・フューチャーサーチ運営委員会にて審査の上、採択プロジェクトを決定します。

主催 未来計画研究社、インターンシップ・フューチャーサーチ運営委員会

協力 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業実施委員会、地域未来創造センター

今月のプロジェクト 大学が自信を持っておすすめするプロジェクトのご案内。

<甲州市魅力発信プロジェクト>地域戦略総合センター 特任教授 澤 伸恭

本プロジェクトは甲州市からの委託で行っているもので、甲州市のさまざまな魅力を発信する情報誌「甲州らいふ」を本学の有志 14 名の学生メンバーが制作しています。「甲州らいふ」は、甲州市のイメージアップを図り、移住・定住・二地域居住の推進等の人口対策・地域活性化策を推進することを目的としており、「甲州市を知ってもらおう」、「甲州市へ行ってみよう」、「甲州市に住んでみよう」がテーマです。今年度が3年目で、年度末までに累計5号を発行することになります。

「甲州らいふ」の制作方針は「わたしと甲州市」です。甲州市内で活動する魅力ある「人」に焦点をあてて、その魅力ある「人」の活動や想い、さらに甲州市への想いを学生の視点から取材し、記事としてまとめ、情報誌として発信していくことで、甲州市の魅力を伝えています。

制作にあたっては、メンバーの学生、甲州市の担当職員の方、制作にご協力いただいている BEEK DESIGN 土屋さんと、毎月編集会議を開催しています。また、制作だけでなく、冊子の配布も行っています。さらに年に一度、甲州市内で合宿をして、甲州市役所の職員や取材対象の方など甲州市民の方々と交流を深めています。

学生の取材に同行すると、取材対象の方々の活動や想いに学生が共感し、その方々を魅力的に感じていくことがわかります。さらに甲州市自体にも、徐々に魅力を感じていることがわかります。そして、学生は、自分が共感した活動や想い、魅力について、読者の方々にもできるだけ同じように感じてもらえるような記事を作成できるよう頑張っています。このように、「人」とコミュニケーションをとって、その「人」に共感して、共感した内容を他の人に自分の言葉で伝えることが、学生にとっていい経験になっていると思います。

平成29年度も甲州市と一緒に継続して制作していきます。まずは今月末に発行予定の甲州らいふの第5号を、また各バックナンバーをご覧いただければ幸いです。



冊子「甲州らいふ」

担当教員紹介 個性派揃いの優秀な教員の意外な素顔を紹介します。

<地域戦略総合センター 特任教授 澤 伸恭>

本学では、地域戦略総合センターに所属し、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC 事業）」を担当するディレクターとして、地域と大学をつなぐ役割を担っています。また、山梨という地域に特化したクラウドファンディングサイト「FAAVO やまなし」の運営や、地域資源を活用して新規事業を行う県内中小企業等のご支援を行っております。こうした仕事を通じてお会いする方は、地域の課題を解決したい、地域で新しい事業を起こしたいなど、自ら新しくプロジェクトを作ろうとする方が多く、とても刺激的で充実した日々を送っております。

私は、生まれてからずっと東京やその近郊で暮らしてきたのですが、約13年前に、東京のシンクタンクを辞めて、小淵沢町に引っ越してきました。振り返ると、引っ越してきた当初は、ずいぶん東京中心の考え方や生活、仕事だったように思うのですが、今ではすっかり山梨中心の考え方や生活、仕事に変わったように思います。山梨の自然や水、空気の素晴らしさはもちろん、人口が少ないこともあってか、人と人の関係が濃密で、また県内で活動される素晴らしい方々と直接出会えることが嬉しいです。例えば、東京で暮らしている時には、生産者とお話することなどまず無かったのですが、今は農産物や加工食品など地元の様々な商品について生産者の想いを直接お聞きしながら購入でき、とても幸せに感じています。

これから山梨県がいっそう魅力ある地域になるよう、少しでもお役に立てたらとても嬉しく思います。



地域戦略総合センター
／特任教授 澤 伸恭(左上)

編集後記

3月に入り春の気配も感じられるようになりました。春は出会いの季節でもあり、別れの季節でもあります。我が家の息子も先日、中学校を卒業しました。子供達の純粋な気持ちから出てくる言葉と涙に心を打たれ、大人の私達もあの頃の自分に戻り、色々考える事ができました。いつまでもその気持ちを忘れずに成長してほしいと願うばかりです。